

四半期報告書

(第61期第2四半期)

自 平成22年7月1日
至 平成22年9月30日



東京都目黒区下目黒一丁目7番1号

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
3 関係会社の状況	2
4 従業員の状況	2

第2 事業の状況

1 生産、受注及び販売の状況	3
2 事業等のリスク	4
3 経営上の重要な契約等	4
4 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	5

第3 設備の状況

第4 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	7
(2) 新株予約権等の状況	7
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	8
(4) ライツプランの内容	8
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	8
(6) 大株主の状況	9
(7) 議決権の状況	10

2 株価の推移

3 役員の状況

第5 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	12
(2) 四半期連結損益計算書	14
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	16

2 その他

第二部 提出会社の保証会社等の情報

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成22年11月11日

【四半期会計期間】 第61期第2四半期（自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日）

【会社名】 株式会社サトー

【英訳名】 SATO CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役執行役員社長 西田 浩一

【本店の所在の場所】 東京都目黒区下目黒一丁目7番1号

【電話番号】 03-6665-0600（代表）

（注）平成22年8月11日より本店を上記に移転いたしました。

【事務連絡者氏名】 執行役員経営企画本部長 櫛田 晃裕

【最寄りの連絡場所】 東京都目黒区下目黒一丁目7番1号

【電話番号】 03-6665-0600（代表）

【事務連絡者氏名】 執行役員経営企画本部長 櫛田 晃裕

【縦覧に供する場所】 株式会社サトー ビジネスプラザ
（埼玉県さいたま市大宮区大成町一丁目207番地）
株式会社東京証券取引所
（東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第60期 第2四半期連結 累計期間	第61期 第2四半期連結 累計期間	第60期 第2四半期連結 会計期間	第61期 第2四半期連結 会計期間	第60期
会計期間	自平成21年 4月1日 至平成21年 9月30日	自平成22年 4月1日 至平成22年 9月30日	自平成21年 7月1日 至平成21年 9月30日	自平成22年 7月1日 至平成22年 9月30日	自平成21年 4月1日 至平成22年 3月31日
売上高（百万円）	36,482	38,605	18,545	19,314	74,917
経常利益（百万円）	841	1,614	607	841	2,235
四半期（当期）純利益（百万円）	264	693	195	392	781
純資産額（百万円）	—	—	35,199	35,448	35,985
総資産額（百万円）	—	—	62,108	66,109	64,203
1株当たり純資産額（円）	—	—	1,165.70	1,174.10	1,191.84
1株当たり四半期（当期）純利益 金額（円）	8.80	23.04	6.50	13.04	25.95
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—	—	—
自己資本比率（%）	—	—	56.5	53.5	55.9
営業活動による キャッシュ・フロー（百万円）	2,964	2,126	—	—	5,860
投資活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△1,033	△3,704	—	—	△2,093
財務活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△292	1,195	—	—	△826
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（百万円）	—	—	12,353	13,060	13,774
従業員数（人）	—	—	3,584	3,602	3,584

（注）1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成22年9月30日現在

従業員数（人）	3,602
---------	-------

（注）従業員数は、就業人員であります。

(2) 提出会社の状況

平成22年9月30日現在

従業員数（人）	1,363
---------	-------

（注）従業員数は、就業人員であります。関係会社への出向者及び当社から社外への出向者を含めず、社外から当社への出向者を含めて記載しております。嘱託社員及び契約社員96名は含めておりません。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第2四半期連結会計期間の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	前年同四半期比 (%)
日本 (百万円)	7,060	—
米州 (百万円)	402	—
欧州 (百万円)	452	—
アジア・オセアニア (百万円)	1,593	—
合計 (百万円)	9,508	—

- (注) 1. 金額は製造原価によって表示しており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。
2. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 商品仕入実績

当第2四半期連結会計期間の商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	前年同四半期比 (%)
日本 (百万円)	1,606	—
米州 (百万円)	277	—
欧州 (百万円)	176	—
アジア・オセアニア (百万円)	321	—
合計 (百万円)	2,381	—

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
2. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

(3) 受注状況

当第2四半期連結会計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (百万円)	前年同四半期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同四半期比 (%)
日本	14,636	—	1,937	—
	(247)	—	(561)	—
米州	1,551	—	141	—
欧州	1,414	—	202	—
アジア・オセアニア	1,569	—	361	—
合計	19,172	—	2,643	—

- (注) 1. 上記金額は販売価格により表示しており、消費税等は含まれておりません。
2. () 内の金額は得意先より注文を受けたもののうち、年間契約によるもの(サプライ製品事業の一部)を示し内書であります。

(4) 販売実績

当第2四半期連結会計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	前年同四半期比 (%)
日本 (百万円)	14,743	—
米州 (百万円)	1,556	—
欧州 (百万円)	1,435	—
アジア・オセアニア (百万円)	1,579	—
合計 (百万円)	19,314	—

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
2. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

2 【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期連結会計期間における日本経済は、全般に輸出増や政策効果による回復軌道にあったものの、先行きについては不透明感が強まっております。

当社グループにおきましては、前年同四半期と比べて、生産回復や在庫調整の一巡に伴いサプライ製品の需要が大幅に増加したほか、各市場の効率化・合理化の動きを捉え、ターゲット市場を絞り込み、メカトロ製品を絡めた提案営業に力を入れました。グループの総力を挙げ各地域で生産性の向上及び製造コストの低減、各種経費節減への取り組みを継続実施し、収益構造は着実に改善してまいりました。

これらの活動の結果、当第2四半期連結会計期間の売上高は、19,314百万円（前年同四半期比104.1%）、営業利益918百万円（同154.1%）、経常利益841百万円（同138.4%）、四半期純利益392百万円（同200.5%）となりました。

セグメント別の状況は以下のとおりであります。

<日本>

営業力の一層の強化を目指して当期初より市場別事業部制を採り、各事業部が専門性の高い提案を行い、そこでの成功事例を全国拠点に横展開して売上拡大をはかっております。半年を経過し、事業部制が定着してきたことに伴い、徐々に新市場、新規用途商談が増加しており、成果が出つつあります。これらの活動により売上高は回復傾向を強め、当第2四半期連結会計期間の売上高は14,743百万円へと回復し、営業利益は774百万円となりました。

<米州>

流通向けのハード商談が不振であったものの、大手運送業向けのOEM供給等、協業への取り組みを強化しております。一方で、第3四半期連結会計期間以降に本格稼動するラベル・タグ印字受託事業等、先行投資によるコスト増の影響がありました。

また、大手小売業向けに、値下げ管理システム商談や、食材の消費期限管理システム商談が複数進行中で今後の売上拡大を見込んでおります。これらの取り組みにより、売上高は、1,556百万円、営業利益は18百万円となりました。

<欧州>

構造改革に取り組んできた欧州は、本社からの営業指導を継続するとともに固定費圧縮効果により前年同四半期と比べ大幅に利益改善が進み、赤字額を縮減することができました。引き続き、黒字化を目指して収益基盤確立のための施策を講じております。

売上面においては、代理店ネットワークの拡充、小口のリピート顧客の囲い込み、保守サービスへの注力等により売上拡大と利益確保をはかっております。これらの取り組みにより、売上高は1,435百万円、営業損失62百万円となりました。

<アジア・オセアニア>

各国で電子機器製造業、大手流通業、ヘルスケア向けなどの商談が活発化しました。中国ではラベル工場の本格稼動により、ラベル提案をきっかけとした商談が増加したほか、新規代理店開拓が進捗し大幅伸長しました。オセアニア地域では、大手スーパー、ファストフード業向け大口商談や構造改革により、前年同四半期営業赤字から営業黒字に転換しております。これらの取り組みにより、売上高は1,579百万円、営業利益142百万円となりました。

製品別の状況は以下のとおりであります。

- a. メカトロ製品売上7,471百万円（前年同四半期比103.5%）
- b. サプライ製品売上11,842百万円（前年同四半期比104.5%）

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、13,060百万円となり、前四半期連結会計期間末と比較して878百万円の増加となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は1,830百万円（前年同四半期比98.1%）となりました。

主な要因は、税金等調整前四半期純利益743百万円、減価償却費512百万円及び仕入債務の増加237百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は695百万円（前年同四半期比121.3%）となりました。

主な要因は、有形固定資産の取得による支出690百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は277百万円（前年同四半期比305.7%）となりました。

主な要因は、長期借入金の返済による支出166百万円等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結会計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は454百万円であります。

なお、当第2四半期連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第2四半期連結会計期間において、前四半期連結会計期間末において計画中であった重要な設備の新設について完了したものは、次のとおりであります。

・新設

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)				完成年月
				建物及び 構築物	工具、器具 及び備品	土地 (面積㎡)	合計	
当社	本社 (東京都目黒区)	日本	新本社ビル	1,592	19	2,476 (2,843.40)	4,088	平成22年8月

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数（株） （平成22年9月30日）	提出日現在発行数（株） （平成22年11月11日）	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	32,001,169	32,001,169	東京証券取引所市場第一部	単元株式数100株
計	32,001,169	32,001,169	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

①平成19年3月16日取締役会決議

	第2四半期会計期間末現在 （平成22年9月30日）
新株予約権の数（個）	2,438
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数（株）	243,800
新株予約権の行使時の払込金額（円）	1個当たり 247,400
新株予約権の行使期間	自 平成21年3月17日 至 平成24年3月16日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の 発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 2,474 資本組入額1,237
新株予約権の行使の条件	<ul style="list-style-type: none"> ・新株予約権者は、権利行使時において当社の取締役、監査役、従業員の地位を有していることを要する。 ・新株予約権者の相続人による、本件新株予約権の相続は認めない。 ・新株予約権者は、付与された権利の質入れその他の処分をすることができない。 ・その他の条件については、当社と対象取締役、監査役及び従業員との間で締結する新株予約権付与契約に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡、質入れその他の処分は認めないものとする。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

②平成19年4月27日取締役会決議

	第2四半期会計期間末現在 (平成22年9月30日)
新株予約権の数(個)	610
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	61,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1個当たり 247,600
新株予約権の行使期間	自 平成20年5月16日 至 平成23年5月15日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 2,476 資本組入額1,238
新株予約権の行使の条件	<ul style="list-style-type: none"> ・新株予約権者は、権利行使時において当社グループの取締役、監査役、従業員の状態を有していることを要する。 ・新株予約権者の相続人による、本件新株予約権の相続は認めない。 ・新株予約権者は、付与された権利の質入れその他の処分をすることができない。 ・その他の条件については、当社と対象取締役、監査役及び従業員との間で締結する新株予約権付与契約に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡、質入れその他の処分は認めないものとする。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(百万円)	資本金残高(百万円)	資本準備金増減額(百万円)	資本準備金残高(百万円)
平成22年7月1日～ 平成22年9月30日	—	32,001,169	—	6,331	—	5,789

(6) 【大株主の状況】

平成22年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (百株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
公益財団法人佐藤陽国際奨学財団	東京都目黒区下目黒一丁目7番1号	37,862	11.83
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	23,156	7.23
(株)サトー	東京都目黒区下目黒一丁目7番1号	18,903	5.90
佐藤 静江	東京都世田谷区	15,984	4.99
(株)アリーナ	東京都世田谷区上北沢三丁目21番23号	13,544	4.23
資産管理サービス信託銀行(株) (証券投資信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	13,400	4.18
サトー社員持株会	東京都目黒区下目黒一丁目7番1号	13,268	4.14
横井 美恵子	東京都調布市	9,051	2.82
岩淵 真理	静岡県伊豆市	8,535	2.66
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	7,783	2.43
計	—	161,489	50.46

- (注) 1. 日本トラスティ・サービス信託銀行(株)、資産管理サービス信託銀行(株)及び日本マスタートラスト信託銀行(株)の所有株式数は、すべて信託業務に係わる株式であります。
2. 公益財団法人サトー国際奨学財団は、平成22年9月1日をもって公益財団法人佐藤陽国際奨学財団へ名称変更しております。
3. フィデリティ投信(株)ならびにその共同保有者であるエフエムアール エルエルシーから、平成22年7月7日付で提出された変更報告書により平成22年6月30日現在でそれぞれ以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けておりますが、株主名簿の記載内容が確認できないため、当社として実質所有株式数の確認ができません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (百株)	株券保有割合 (%)
フィデリティ投信(株)	東京都港区虎ノ門四丁目3番1号	14,917	4.66
エフエムアール エルエルシー	米国 02109 マサチューセッツ州ボストン、 デヴォンシャー・ストリート82	8,245	2.58

4. 住友信託銀行(株)ならびにその共同保有者である日興アセットマネジメント(株)から、平成22年6月7日付で提出された変更報告書により平成22年5月31日現在でそれぞれ以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けておりますが、株主名簿の記載内容が確認できないため、当社として実質所有株式数の確認ができません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (百株)	株券保有割合 (%)
住友信託銀行(株)	大阪市中央区北浜四丁目5番33号	16,790	5.25
日興アセットマネジメント (株)	東京都港区赤坂九丁目7番1号	338	0.11

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成22年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 1,890,300	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 30,004,700	300,047	—
単元未満株式	普通株式 106,169	—	1 単元 (100株) 未満の株式
発行済株式総数	32,001,169	—	—
総株主の議決権	—	300,047	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には当社保有の自己株式13株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成22年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
株式会社サトー	東京都目黒区下目黒 一丁目7番1号	1,890,300	—	1,890,300	5.90
計	—	1,890,300	—	1,890,300	5.90

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高 (円)	1,344	1,206	1,197	1,105	1,110	1,087
最低 (円)	1,182	983	972	1,008	1,006	999

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までの役員の異動は、次のとおりであります。

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
取締役 執行役員副社長	国際営業担当 兼国際営業本部長	取締役 専務執行役員	国際営業本部長	松山 一雄	平成22年7月2日

第5【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び前第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第2四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び前第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第2四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,910	13,584
受取手形及び売掛金	16,198	16,346
有価証券	150	189
商品及び製品	6,060	6,198
仕掛品	103	114
原材料及び貯蔵品	1,649	1,548
その他	4,342	3,301
貸倒引当金	△132	△159
流動資産合計	41,282	41,125
固定資産		
有形固定資産		
土地	7,592	5,069
その他(純額)	10,320	9,925
有形固定資産合計	※1 17,912	※1 14,994
無形固定資産		
のれん	299	369
その他	1,383	1,505
無形固定資産合計	1,682	1,875
投資その他の資産	※2 5,231	※2 6,208
固定資産合計	24,826	23,078
資産合計	66,109	64,203
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,755	4,666
短期借入金	4,067	3,542
未払金	11,301	10,817
未払法人税等	715	660
引当金	145	152
その他	3,079	2,908
流動負債合計	24,064	22,748
固定負債		
長期借入金	3,167	2,000
退職給付引当金	1,656	1,719
その他	1,771	1,750
固定負債合計	6,595	5,469
負債合計	30,660	28,218

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,331	6,331
資本剰余金	5,799	5,799
利益剰余金	28,509	28,327
自己株式	△3,458	△3,457
株主資本合計	37,181	37,000
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4	5
為替換算調整勘定	△1,832	△1,118
評価・換算差額等合計	△1,828	△1,112
新株予約権	87	89
少数株主持分	8	7
純資産合計	35,448	35,985
負債純資産合計	66,109	64,203

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
売上高	36,482	38,605
売上原価	21,273	22,325
売上総利益	15,208	16,279
販売費及び一般管理費	※1 14,439	※1 14,459
営業利益	769	1,819
営業外収益		
受取利息	17	14
受取配当金	1	0
為替差益	73	—
受取賃貸料	—	44
その他	83	47
営業外収益合計	175	106
営業外費用		
支払利息	65	55
為替差損	—	180
その他	36	75
営業外費用合計	102	311
経常利益	841	1,614
特別利益		
固定資産売却益	1	11
償却債権取立益	11	—
前期損益修正益	43	—
その他	3	2
特別利益合計	60	13
特別損失		
事業再編損	142	100
固定資産除却損	11	20
固定資産売却損	4	0
減損損失	26	—
事務所移転費用	—	72
その他	9	16
特別損失合計	194	209
税金等調整前四半期純利益	708	1,418
法人税、住民税及び事業税	646	700
法人税等調整額	△203	23
法人税等合計	442	724
少数株主損益調整前四半期純利益	—	694
少数株主利益	0	0
四半期純利益	264	693

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
売上高	18,545	19,314
売上原価	10,785	11,197
売上総利益	7,759	8,117
販売費及び一般管理費	※1 7,164	※1 7,199
営業利益	595	918
営業外収益		
受取利息	8	7
受取配当金	0	0
為替差益	22	—
受取賃貸料	—	21
その他	44	18
営業外収益合計	75	47
営業外費用		
支払利息	35	28
為替差損	—	55
その他	26	39
営業外費用合計	62	123
経常利益	607	841
特別利益		
固定資産売却益	0	11
前期損益修正益	43	—
その他	1	0
特別利益合計	45	11
特別損失		
事業再編損	106	90
固定資産除却損	7	18
固定資産売却損	4	0
減損損失	26	—
その他	9	0
特別損失合計	154	110
税金等調整前四半期純利益	499	743
法人税、住民税及び事業税	370	396
法人税等調整額	△67	△46
法人税等合計	302	349
少数株主損益調整前四半期純利益	—	393
少数株主利益	0	0
四半期純利益	195	392

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	708	1,418
減価償却費	1,227	1,016
減損損失	26	—
のれん償却額	66	49
固定資産売却損益 (△は益)	2	△10
固定資産除却損	11	20
事業再編損失	142	100
引当金の増減額 (△は減少)	10	3
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△6	28
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	81	△4
受取利息及び受取配当金	△18	△14
支払利息	65	55
為替差損益 (△は益)	20	37
売上債権の増減額 (△は増加)	△588	△125
たな卸資産の増減額 (△は増加)	1,114	△262
仕入債務の増減額 (△は減少)	597	143
未払金の増減額 (△は減少)	△45	404
その他	△140	20
小計	3,275	2,881
利息及び配当金の受取額	18	14
利息の支払額	△65	△54
事業再編による支出	△112	△100
法人税等の支払額	△151	△615
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,964	2,126
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△590	△3,606
有形固定資産の売却による収入	15	29
無形固定資産の取得による支出	△206	△105
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	※2 △36	※3 △59
その他	△214	37
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,033	△3,704
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	64	△109
長期借入れによる収入	—	2,000
長期借入金の返済による支出	—	△166
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△510	△511
その他	153	△16
財務活動によるキャッシュ・フロー	△292	1,195
現金及び現金同等物に係る換算差額	△100	△331
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,538	△713
現金及び現金同等物の期首残高	10,814	13,774
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 12,353	※1 13,060

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
1. 連結の範囲に関する事項の変更	<p>(1) 連結の範囲の変更</p> <p>第1四半期連結会計期間より、SATO ARGENTINA S.A. は新たに株式を取得したため、また、当第2四半期連結会計期間より、SATO LABELLING POLAND SP. Z O.O. は新たに設立したため、連結の範囲に含めております。</p> <p>(2) 変更後の連結子会社の数</p> <p>35社</p>
2. 会計処理基準に関する事項の変更	<p>(1) 資産除去債務に関する会計基準の適用</p> <p>第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。</p> <p>これによる損益へ与える影響は軽微であります。</p> <p>(2) 企業結合に関する会計基準等の適用</p> <p>第1四半期連結会計期間より、「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)、「「研究開発費等に係る会計基準」の一部改正」(企業会計基準第23号 平成20年12月26日)、「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成20年12月26日)、「持分法に関する会計基準」(企業会計基準第16号 平成20年12月26日公表分)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)を適用しております。</p>

【表示方法の変更】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
(四半期連結損益計算書)	<p>1. 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第2四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。</p> <p>2. 前第2四半期連結累計期間において、営業外収益の「その他」に含めて表示しておりました「受取賃貸料」は、営業外収益総額の100分の20を超えたため、当第2四半期連結累計期間では区分掲記することとしました。なお、前第2四半期連結累計期間の営業外収益の「その他」に含まれる「受取賃貸料」は3百万円であります。</p>

	当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)
(四半期連結貸借対照表)	<p>前第2四半期連結会計期間において、有形固定資産は一括表示しておりましたが、「土地」が総資産の100分の10を超えたため、当第2四半期連結会計期間では、「土地」と「その他(純額)」として表示することとしました。なお、前第2四半期連結会計期間の有形固定資産に含まれる「土地」は5,368百万円であります。</p>
(四半期連結損益計算書)	<p>1. 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第2四半期連結会計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。</p> <p>2. 前第2四半期連結会計期間において、営業外収益の「その他」に含めて表示しておりました「受取賃貸料」は、営業外収益総額の100分の20を超えたため、当第2四半期連結会計期間では区分掲記することとしました。なお、前第2四半期連結会計期間の営業外収益の「その他」に含まれる「受取賃貸料」は1百万円であります。</p>

【簡便な会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
1. 棚卸資産の評価方法	棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。
2. 固定資産の減価償却の算定方法	減価償却の方法として定率法を採用している固定資産の減価償却費については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定しております。
3. 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法	繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度末決算において使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを使用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
※1 有形固定資産の減価償却累計額は、16,616百万円であります。	※1 有形固定資産の減価償却累計額は、16,890百万円であります。
※2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額 投資その他の資産 116百万円	※2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額 投資その他の資産 73百万円

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び内訳は、次のとおりであります。	※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び内訳は、次のとおりであります。
(百万円)	(百万円)
給与 6,358	給与 6,675
研究開発費 941	研究開発費 951
賞与引当金繰入額 38	賞与引当金繰入額 65
退職給付費用 98	退職給付費用 57
貸倒引当金繰入額 54	貸倒引当金繰入額 46

前第2四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)
※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び内訳は、次のとおりであります。	※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び内訳は、次のとおりであります。
(百万円)	(百万円)
給与 3,164	給与 3,345
研究開発費 462	研究開発費 454
賞与引当金繰入額 38	賞与引当金繰入額 31
退職給付費用 49	退職給付費用 28
貸倒引当金繰入額 28	貸倒引当金繰入額 44

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)																																										
<p>※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <p style="text-align: right;">(百万円)</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">12,246</td> </tr> <tr> <td>有価証券勘定</td> <td style="text-align: right;">107</td> </tr> <tr> <td><u>現金及び現金同等物</u></td> <td style="text-align: right;"><u>12,353</u></td> </tr> </table> <p>※2 株式の追加取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳</p> <p>株式の追加取得により新たに株式会社イン・アウトを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに同社株式の取得価額と取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。</p> <p style="text-align: right;">(百万円)</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>流動資産</td> <td style="text-align: right;">368</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">17</td> </tr> <tr> <td>のれん</td> <td style="text-align: right;">52</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">△54</td> </tr> <tr> <td>同社株式の当四半期連結会計期間より前の既取得分</td> <td style="text-align: right;">△56</td> </tr> <tr> <td><u>同社株式の追加取得価額</u></td> <td style="text-align: right;"><u>328</u></td> </tr> <tr> <td>上記のうち未払金額</td> <td style="text-align: right;">△281</td> </tr> <tr> <td>同社の現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;">△10</td> </tr> <tr> <td><u>差引：同社追加取得のための支出</u></td> <td style="text-align: right;"><u>36</u></td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	12,246	有価証券勘定	107	<u>現金及び現金同等物</u>	<u>12,353</u>	流動資産	368	固定資産	17	のれん	52	流動負債	△54	同社株式の当四半期連結会計期間より前の既取得分	△56	<u>同社株式の追加取得価額</u>	<u>328</u>	上記のうち未払金額	△281	同社の現金及び現金同等物	△10	<u>差引：同社追加取得のための支出</u>	<u>36</u>	<p>※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <p style="text-align: right;">(百万円)</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">12,910</td> </tr> <tr> <td>有価証券勘定</td> <td style="text-align: right;">150</td> </tr> <tr> <td><u>現金及び現金同等物</u></td> <td style="text-align: right;"><u>13,060</u></td> </tr> </table> <p>※3 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳</p> <p>株式の取得により新たにSATO ARGENTINA S.A.を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに同社株式の取得価額と取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。</p> <p style="text-align: right;">(百万円)</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>流動資産</td> <td style="text-align: right;">55</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">39</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">△25</td> </tr> <tr> <td><u>同社株式の取得価額</u></td> <td style="text-align: right;"><u>69</u></td> </tr> <tr> <td>同社の現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;">△9</td> </tr> <tr> <td><u>差引：同社株式取得のための支出</u></td> <td style="text-align: right;"><u>59</u></td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	12,910	有価証券勘定	150	<u>現金及び現金同等物</u>	<u>13,060</u>	流動資産	55	固定資産	39	流動負債	△25	<u>同社株式の取得価額</u>	<u>69</u>	同社の現金及び現金同等物	△9	<u>差引：同社株式取得のための支出</u>	<u>59</u>
現金及び預金勘定	12,246																																										
有価証券勘定	107																																										
<u>現金及び現金同等物</u>	<u>12,353</u>																																										
流動資産	368																																										
固定資産	17																																										
のれん	52																																										
流動負債	△54																																										
同社株式の当四半期連結会計期間より前の既取得分	△56																																										
<u>同社株式の追加取得価額</u>	<u>328</u>																																										
上記のうち未払金額	△281																																										
同社の現金及び現金同等物	△10																																										
<u>差引：同社追加取得のための支出</u>	<u>36</u>																																										
現金及び預金勘定	12,910																																										
有価証券勘定	150																																										
<u>現金及び現金同等物</u>	<u>13,060</u>																																										
流動資産	55																																										
固定資産	39																																										
流動負債	△25																																										
<u>同社株式の取得価額</u>	<u>69</u>																																										
同社の現金及び現金同等物	△9																																										
<u>差引：同社株式取得のための支出</u>	<u>59</u>																																										

(株主資本等関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成22年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数

普通株式 32,001千株

2. 自己株式の種類及び株式数

普通株式 1,890千株

3. 新株予約権等に関する事項

ストック・オプションとしての新株予約権

新株予約権の四半期連結会計期間末残高 提出会社 87百万円

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月18日 定時株主総会	普通株式	511	17	平成22年3月31日	平成22年6月21日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年11月5日 取締役会	普通株式	481	16	平成22年9月30日	平成22年12月13日	利益剰余金

5. 株主資本の金額の著しい変動

著しい変動がないため記載していません。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)

	メカトロ製品 事業(百万円)	サプライ製品 事業(百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	7,217	11,327	18,545	—	18,545
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	7,217	11,327	18,545	—	18,545
営業利益	255	340	595	—	595

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

	メカトロ製品 事業(百万円)	サプライ製品 事業(百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	13,945	22,537	36,482	—	36,482
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	13,945	22,537	36,482	—	36,482
営業利益	278	491	769	—	769

(注) 1. 事業区分は製品の種類によりメカトロ製品事業とサプライ製品事業に区分しており、主な製品は以下のとおりであります。

- ① メカトロ製品事業……電子プリンタ、ラベリングロボット、ハンドラベラー、保守サービス
- ② サプライ製品事業……電子プリンタ用ラベル・タグ、ハンドラベラー用ラベル、ICタグ・ラベル、シール、チケット、リボン、MCカード

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間（自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日）

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア オセアニア (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	13,991	1,569	1,710	1,273	18,545	—	18,545
(2)セグメント間の内部売上高	336	9	50	1,314	1,711	(1,711)	—
計	14,328	1,579	1,760	2,588	20,256	(1,711)	18,545
営業利益又は 営業損失(△)	689	66	△93	△90	572	23	595

前第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア オセアニア (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	27,529	3,178	3,377	2,398	36,482	—	36,482
(2)セグメント間の内部売上高	621	34	109	2,623	3,389	(3,389)	—
計	28,150	3,213	3,486	5,022	39,872	(3,389)	36,482
営業利益又は 営業損失(△)	1,203	126	△313	△258	758	10	769

(注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 本邦以外の区分に属する地域の内訳は次のとおりであります。

(1) 北米……………米国

(2) 欧州……………ドイツ、イギリス、ポーランド、ベルギー、フランス、スペイン、スウェーデン

(3) アジア・オセアニア……マレーシア、シンガポール、タイ、中国、ベトナム、オーストラリア、
ニュージーランド

【海外売上高】

前第2四半期連結会計期間（自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日）

	北米	欧州	アジア他	計
I. 海外売上高(百万円)	1,569	1,710	1,273	4,553
II. 連結売上高(百万円)	—	—	—	18,545
III. 海外売上高の連結売上高に占める割合(%)	8.5	9.2	6.9	24.6

前第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

	北米	欧州	アジア他	計
I. 海外売上高(百万円)	3,178	3,377	2,398	8,953
II. 連結売上高(百万円)	—	—	—	36,482
III. 海外売上高の連結売上高に占める割合(%)	8.7	9.3	6.6	24.5

(注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 各区分に属する地域の内訳は次のとおりであります。

(1) 北米……………米国、カナダ

(2) 欧州……………ドイツ、イギリス、フランス、イタリア他

(3) アジア他……マレーシア、シンガポール、タイ、中国、オーストラリア他

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは国内外で自動認識技術を駆使し、各地域毎にその地域の特性に合わせた形で独自のビジネスモデル「DCS&Labeling」を展開し、メカトロ製品及びサプライ製品の製造・販売のほか、ソフトウェア及び保守サービスの提供を行い事業活動を行っております。

国内においては当社が、海外においては、米州、欧州、アジア・オセアニアの地域統括会社が其々の傘下にある現地法人に対して、生産面、販売面での戦略立案を行うとともに経営指導を行い、地域全体を指導、管理する体制をとっております。

従いまして、当社は生産・販売体制を基礎とした地域別のセグメントから構成されており、日本、米州（主に米国）、欧州（主に英国、ドイツ）、アジア・オセアニア（主にシンガポール、マレーシア）の4地域を報告セグメントとしております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）

（単位：百万円）

	日本	米州	欧州	アジア・オセアニア	合計
売上高					
外部顧客への売上高	29,359	3,168	3,067	3,010	38,605
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,246	41	120	2,707	5,116
計	31,605	3,209	3,187	5,718	43,721
セグメント利益又は セグメント損失（△）	1,591	72	△104	209	1,768

当第2四半期連結会計期間（自平成22年7月1日 至平成22年9月30日）

（単位：百万円）

	日本	米州	欧州	アジア・オセアニア	合計
売上高					
外部顧客への売上高	14,743	1,556	1,435	1,579	19,314
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,171	15	55	1,263	2,505
計	15,914	1,571	1,490	2,843	21,819
セグメント利益又は セグメント損失（△）	774	18	△62	142	873

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

当第2四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,768
セグメント間取引消去	△14
のれんの償却額	△43
棚卸資産の調整額	106
その他の調整額	3
四半期連結損益計算書の営業利益	1,819

当第2四半期連結会計期間（自平成22年7月1日 至平成22年9月30日）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	873
セグメント間取引消去	3
のれんの償却額	△21
棚卸資産の調整額	62
その他の調整額	0
四半期連結損益計算書の営業利益	918

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(金融商品関係)

著しい変動がないため記載しておりません。

(有価証券関係)

著しい変動がないため記載しておりません。

(デリバティブ取引関係)

著しい変動がないため記載しておりません。

(ストック・オプション等関係)

当第2四半期連結会計期間においてストック・オプション、自社株式オプションまたは自社の株式の付与はありません。また、過年度分のストック・オプションの条件変更を行っていないため記載しておりません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

著しい変動がないため記載しておりません。

(賃貸等不動産関係)

著しい変動がないため記載しておりません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
1株当たり純資産額 1,174.10円	1株当たり純資産額 1,191.84円

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	35,448	35,985
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)	95	97
(うち新株予約権)	(87)	(89)
(うち少数株主持分)	(8)	(7)
普通株式に係る四半期連結会計期間末 (連結会計年度末)の純資産額 (百万円)	35,353	35,887
1株当たり純資産額の算定に用いられた 四半期連結会計期間末(連結会計年度 末)の普通株式の数(千株)	30,110	30,111

2. 1株当たり四半期純利益金額等

前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額 8.80円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。	1株当たり四半期純利益金額 23.04円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益金額(百万円)	264	693
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	264	693
普通株式の期中平均株式数(千株)	30,111	30,110
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

前第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額 6.50円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。	1株当たり四半期純利益金額 13.04円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益金額(百万円)	195	392
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	195	392
普通株式の期中平均株式数(千株)	30,111	30,110
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

著しい変動がないため記載しておりません。

2【その他】

当四半期連結会計期間及び当四半期連結会計期間終了後四半期報告書提出日までの間に、提出会社は配当について次のとおり決議しました。

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年11月5日 取締役会	普通株式	481	16	平成22年9月30日	平成22年12月13日	利益剰余金

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年11月12日

株式会社サトー

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 宮坂 泰行 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 坂本 一朗 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社サトーの平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社サトー及び連結子会社の平成21年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年11月8日

株式会社サトー

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 長島 拓也 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 滝沢 勝己 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社サトーの平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社サトー及び連結子会社の平成22年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。